
そして、君は空になった 2

✱ 雫 美優 ✱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして、君は空になった2

【Nコード】

N2984B

【作者名】

✪雫 美優✪

【あらすじ】

ライバル転校生がきて、美優は勇に？

恋人

『恋人』

次の日

「美優」

勇がきた。

「いさむうーおはよう」

「おはよう」

「勇」いつもありがと」

「いやいや、大丈夫！」

「勇のおかげで毎日学校楽しいよ！」

「あはは…照れる…」

勇は顔立ちがよくて、かなりのイケメン。

勉強もよくでき、運動だってできる。

かなりのモテモテ。

そんな勇といわれるなんて、アタシは幸せって思ってもいいの？

「勇、あたしは…」あたしは、今、勇に告ろうとしていた。

「ん、何？」

勇がみつめる。

「あのっあのね、あたしね、勇のことが…」

「あ、待って…」

「ゴメン…」

「俺さ、美優のことが好きだ！」

！！エエエエエ！！

まさか、勇からいわれるなんて…！

「だから、付き合っしてほしいんだ。」

うれしい！

嬉しくて、嬉しくて。

涙がでてくる。

「はい、喜んで！つうう…うえーん…」

「な、なんで泣く？たく泣き虫なんだから…」

「だって嬉しいんだもん！こんなうれしいことはじめてなんだもん！」

「うは、俺もうれしい」

「勇、大好きだよ…！」

「俺も好きだ！」

そして、唇が触れる。

この時、あたしは、ホントに幸せだった。

学校では普段通りだったのに、何故かみんなアタシと勇が付き合っていることを知ってた。

「よかったね！勇とつきあえて！」

美紀が笑顔で言う。

「ありがとう！マコトとはどう？」

アタシは、美紀の彼氏のマコトのことを訪ねた。

「うん、順調。」

美紀がピースして言う。

美紀とマコトはちょうど一年ぐらい付き合っているだろうか。

アタシの理想のカップルだった。

マコトは勇と仲がよく、いつも一緒にいる。

そんなマコトは、美紀を大事にしている、美紀もそれに答えて、ラブ×2だ。

「よかったねえ〜！」

私も嬉しくなった。

美優は今、どこの誰よりも幸せだね。

「あ、ねえ、マコトも美優のこと心配してたよ！」

「え、ホント？やだなあ〜みんなに迷惑かけて…」

「んなことないって！美優はみんなのアイドルで存在なんだから！」

「アハハ、ありえない〜」

美紀の笑顔。

やっぱり素敵だなあ

「おい！」

マコトがきた。

「マコ！」

美紀がきずく。

「あれ、美優じゃん。もう平気なの？」

「うん！マコも色々ありがとねえ！」

「いやいや…俺は特に何もしてへんよ」

「ううん、きずかってくれてたやろ？それだけで十分やで！」

「俺ははぶきかよあゝ！」

そこへ、勇がきた。

「勇ゝ！美優がまつてたわよあゝ！」

美紀がクスクス笑いながら言う。

「ちよつとおゝ」

「マジ？俺も美優を待つてたけどなかなかこないんだもん！」

「ゴメンゴメン…」

「でも美優が待つててくれたんなら許す！」

勇はにっこり笑った。

「きゃゝ！アツアツカップルの邪魔なんてできないわよね？マコい

こう！」

「おう、俺らもラブラブしよーぜ！」

「だね！」

そういつて二人は楽しそうに行ってしまった。

勇と二人。

目があう。

なんだかおかしくて、恥ずかしくて、二人で笑っていた。

「勇…」

「美優…」

「ずっと一緒にいようね!」

付き合い始めて二週間後。

勇のことがどんどん好きになってくる。

朝。教室にはみんながいた。

「美優、おそいぞろ!」

美紀が大きな声で言う。

「ごめーん!」

「あ、明日から迎えにいつでもいい?」

勇がいう。

「いいよ!」

いいにきまつてるじゃん! 勇大好きだし、もっと一緒にいたいもん。

「席につけ!」

担任の晴治が入ってきた。

皆席につく。

「今日は転校生がきた。みんな仲良くしろよ! さ、転校生入ってきたさい」

「はい……」

かわいらしい声をしてきたのは目がぱっちり、ロングでやわらかそうな髪。スタイルもいい。

本当のお人形みたいな女の子だった。

「うわぁ〜かわいい〜!」

みんながざわつく。

勇は…

勇はどんな反応なの…?

恐る恐る勇のほうに視線を向けた。

なんだ…いつもとかわらない！

よかったあゝ！

ホントによかったあゝ！

「このこは神奈川からきた、舞川せなさんだよ。仲良くしてやってくれ。えと…隣はあゝ…飯塚勇の隣なあゝ！勇、教科書みせてやってくれ。」

「はい」

勇…の隣。

嫌だけど…しょうがないよね。

勇信じてる。

「あの、ヨロシクお願いします…」
せながいう。

「こちらこそ。」

勇がにっこり微笑む。

「すみません、まだ教科書なくて…」

「いやいや、いいですよ。」

「アハハ…勇さんって優しいんですね」

「アハハ…」

みていて嫌だ。

はやく授業終わって！！

50分後。

キンコンカンコン

チャイムがなり。

休み時間になる。

美紀がかけよってきた。

「転校生と勇くん、隣になっちゃったね…」

「うん…美紀いっ！どうしよぉ…」

「今は勇を信じな！」

「うっ…ん…」

勇を信じて。

「勇君！あの、職員室ってどこ？」
せながたずねる。

「あ、俺一緒にいくよ！」

「ホントに？ゴメンネ。ありがとう！」

彼女の微笑みはホントに眩しかった。

その後もその後もせなは勇にはなしかける。

美優とは今朝きりはなさなかった。

勇はせなちゃんが…

だめだよ！

信じなきゃ！！

帰り。

「美優、今日帰れない。」

え？どうして？？？

「今日、舞川さんを町の色々なところ紹介しないとだからさ。」

またせなちゃん？

美優と約束より、せなちゃん？

「そっか。わかったよ…」

「ごめんな！じゃあ明日帰ろう？」

勇がきずかう。

「ゴメン…明日は帰れないよ…」

「そか。じゃああさっては？」

「あさつても無理…」

「じゃあ美優が帰れる日は？」

「ゴメンね…美優はもう勇とは帰れないよ…」

「え！？」

「じゃあっ……ね？」

アタシは全力ではしった。

泣きながら。

家につく。

ケータイになる。

受信《勇

R E R E R R E …♪

ピッ。

きる。

何度かかかってきたがきった。

そのうちメールがきた。

みてみよう…

内容は

『美優…ゴメン。ゴメン。今会いたい。美優んちの玄関にいる。』

え……？

アタシは急いで玄関のドアをあけた。

「美優…」

「勇っ…」

「会いたかった。よかった。来てくれて…」

「勇の馬鹿…美優が心配するじゃん！勇はせなちゃんのが好きなの？」

「俺は、美優一筋！！美優以外好きになれない…」

「勇…うれしいよ…でも、美優以外の子と仲良くしてたら、美優…やいちゃうよお…」

「美優、俺は、美優に妬いてもらえてうれしい…」

「もおっ！」

「ハハッ」

そういつてアタシに抱き着いてきた。

私も勇に抱き着いた。

喧嘩もするけど、仲直りしようねっ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2984b/>

そして、君は空になった2

2011年10月3日17時07分発行